

園だより

2024年8月号
2024年8月1日発行



レジリエンス

厳しすぎる暑さが日本中を覆い、子ども達の夏の楽しみも奪うほどです。プール遊びや水遊び、虫取りなど野外で楽しむ遊びも、暑すぎて危険なため日中は屋外に出られない日が多くありました。それでも、一日のうちで比較的気温が下がる時間を見計らって、園庭にでたりシャワーをして汗を流したり。成長期の子どものですから、身体をたくさん動かして汗をかき、暑さに負けない身体作りをめざしています。

それでも部屋で過ごす時間が長いので、子ども同士のけんかや衝突は毎日です。おもちゃの取り合いや、噛みつきやひっかきもよくある日常。喧嘩を通して、相手の気持ちに気づくことは大切な経験ですね。3歳4歳ではすぐに言葉で自分の気持ちを説明できなくて、噛みついたり手が出たり。けんかやトラブルには必ず理由があるので、その理由を知るために「見守りカメラ」が役に立っています。喧嘩がおきた時、その一部始終を全部職員が見ているとは限らないので、「何が原因だったのかな？」とカメラを巻き戻して検証することに活用しています。

子ども時代だからこそ、壁も失敗も衝突も経験して「折れない心＝レジリエンス」を身に着けて成長してほしいと願うのです。

レジリエンスとは「何があってもしなやかに立ち直れる力」とあります。平和な祭典のパリオリンピックが開催中ですが、異常気象や経済危機、戦争や紛争など地球規模で予測不能な時代です。そんな時代で育ち、生きていく子ども達だからこそ、失敗や辛いことがあっても、しなやかに立ち直ってなりたい自分をめざしてほしい。その経験をとおして生き抜くすべがあれば、たくましく幸せな自分の人生を歩めるのではないのでしょうか。未来を生きる子ども達に身に着けてほしい力なのです。

園長 三幣典子

「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。」

(ローマ人への手紙5章3～4節)